

予報期間 9月28日から10月4日まで

◆今期間のポイント

<主要しょう乱の概要>

- 台風第26号については最新の台風予報を参照。
- 30日から10月1日は、低気圧が沿海州からサハリン付近に進み、前線が北日本付近を通過する。別の前線が西日本から東日本付近にのびる。
- 2日は、低気圧が発達しながらオホーツク海に進み、前線が日本の東にのびる。大陸の高気圧が日本海から黄海付近に張り出す。
- 3日から4日は、高気圧が北日本付近から日本の東へ移動し、気圧の谷が沿海州から日本海付近へ進む。

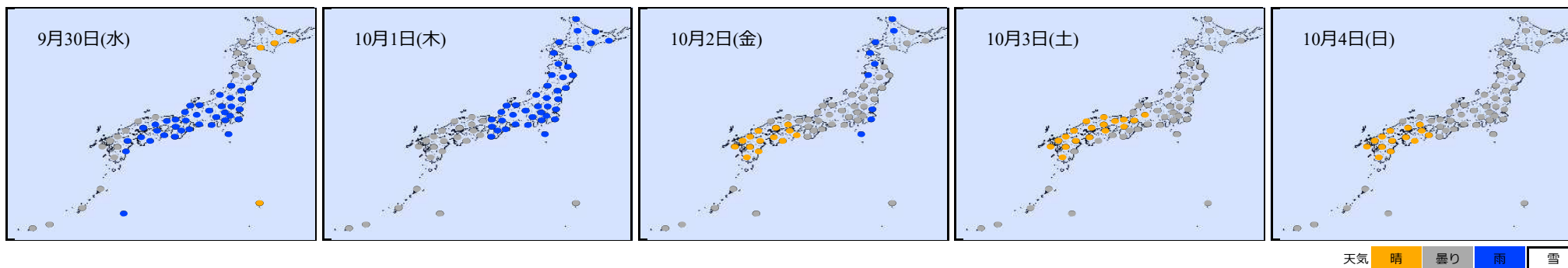
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 10月1日頃は、伊豆諸島では台風第26号の進路等によっては、大しけや警報級の大雨となるおそれがある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

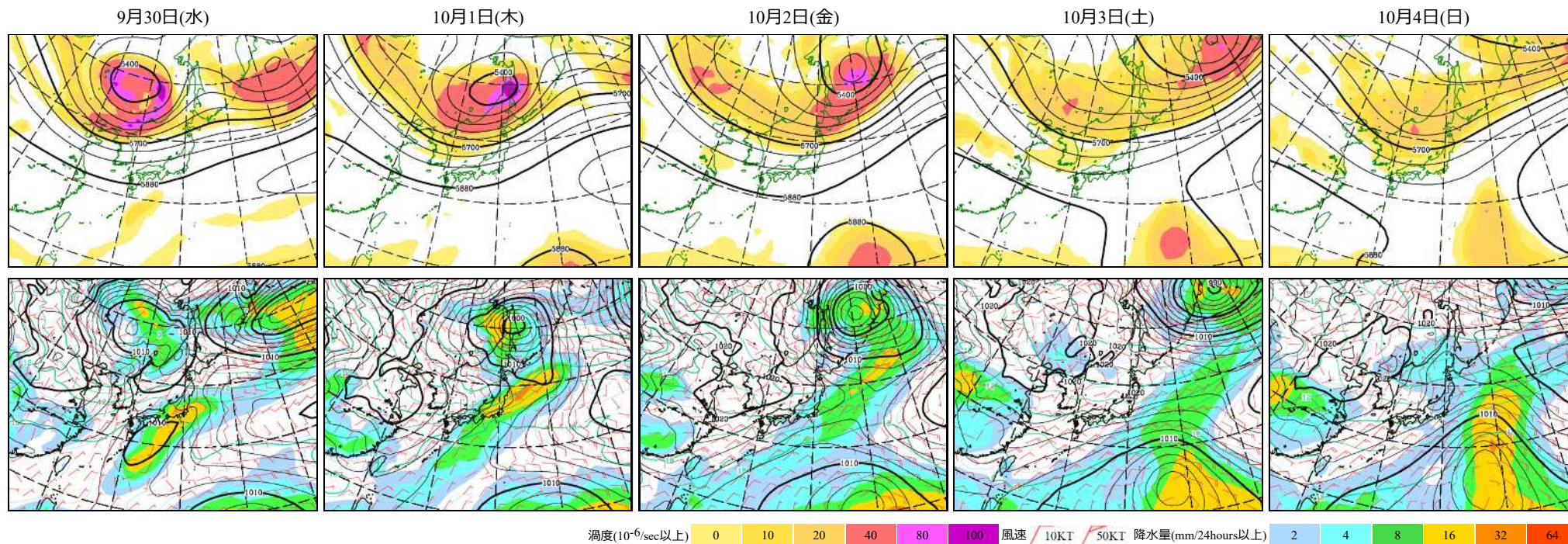
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

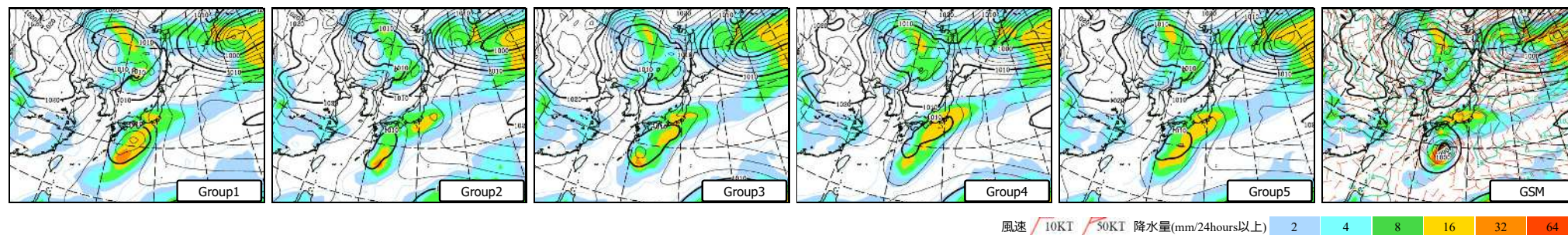


- 北日本は、曇りや雨の降る日が多いが、30日は晴れる所がある。
- 東日本と沖縄・奄美は、曇りや雨の降る日が多い。
- 西日本は、30日から10月1日は曇りや雨の所が多いが、2日以降は晴れる所が多い。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆9月30日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、10月2日に中国東北区から朝鮮半島付近に進むトラフが不明瞭となり、弱いリッジが進む予想に変わった。地上は2日に大陸の高気圧の日本海から黄海付近への張り出しが強まり、3日頃にかけて移動性の高気圧が北日本付近を移動する予想に変わった。
- 台風第26号の予想は、依然としてモデル間の差が大きくなっている。上空の流れは、30日から10月3日にかけて寒冷渦が中国東北区からオホーツク海に進む予想は各モデル揃っているが、その後続のリッジやトラフの予想については各モデル初期値変わりが見られ、モデル間でも相違がある。
- ENSメンバーでは、台風第26号のコースのばらつきは比較的小さいが、東進のスピードはメンバー間のばらつきが大きくなっており、本州付近にのびる前線の位置等についても相違がある。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。